

びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画 (2021 年度)

2021 年 5 月制定

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム

1. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業概要

滋賀県内のびわ湖東北部地域においては、個々の大学・短期大学と自治体・経済産業界等との間で様々な連携・協働が試みられ、一定の成果を上げている。今後さらにびわ湖東北部地域の活性化のためには、これまでの連携・協働をより発展させ、社会の持続可能な開発目標である SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を活用しながら、これまで以上に自治体や経済産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開することに大学・短期大学・自治体・産業界等が合意をしたことから地域プラットフォーム事業を形成する準備が進められてきた。

2018 年 9 月に SDGs を活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標とする、彦根・長浜地域の滋賀大学・滋賀県立大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀県・彦根市・彦根商工会議所・長浜市・長浜商工会議所の 10 機関による彦根・長浜地域連携協議会（以下、「協議会」という）が組織された。そして協議会の事業実施に向け、文部科学省 2018 年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ 5 に申請を行い、2019 年度より採択されることとなった。

2019 年度において、協議会による事業として「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業（以下、「プラットフォーム事業」という）」が展開していった。

プラットフォーム事業では、大学改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、特徴や強みを生かした地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むことを柱としている。そのため地域内における高等教育の充実・発展の方向性を包括的に示すための中長期計画を策定している。この中長期計画に基づき多種多様な事業（協議会等を含む）に取り組み、当初の事業計画の想定を超えた具体的な活動を行うことができた。

2020 年度の事業計画については、地域の活性化に資する活動において協力していただいている米原市の本協議会への加盟といった地域のネットワークが強化されることをうけ、協議会名称を「びわ湖東北部地域連携協議会」に改め、「2020 年度 びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業年間計画（ロードマップ）」をもとに、活動指標の見直しを含めた事業計画を定めることにし、中長期計画の実現に向け活動を行った。新型コロナウイルス感染症の流行状況下でありながらも、連携機関の創意工夫により、各 WG において前年度の事業を継承・発展させ、73 件の活動を行うことができた。

2021 年度では、前年度の経験を生かした新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、中長期計画の達成に向け、これまでの事業を継承・発展させるとともに、地域課題の解決に向けた新規事業に取り組む事業計画となっている。

2. びわ湖東北部地域連携協議会 事業概要及び活動指標（2021 年度）

（1）2021 年度 事業概要

プラットフォーム事業では、びわ湖東北部地域の課題を共有した上で、以下の 4 つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGs を活用することで、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を目指している。

- 1) 自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- 2) 誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- 3) 地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- 4) 若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

これらはそれぞれ別個の独立したものでなく、本事業が設定する課題分野の個々の取組が総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像と捉えている。

（2）運営体制

プラットフォーム事業を円滑に進めるにあたり、協議会を運営する事務局を置き、中長期計画の根幹に据えている 4 つの将来像の実現にむけ、以下 3 つの事業に対応したワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置している。

- 1) ワーキンググループ A (WG-A)：産業振興に向けた産官学連携事業
- 2) ワーキンググループ B (WG-B)：地域コミュニティの活性化事業
- 3) ワーキンググループ C (WG-C)：地域を担う次世代人材の育成事業

さらに、以上の 3 つの事業の進捗状況を管理する事務局を置き、事業活動の情報発信を行うワーキンググループ (WG-D)：広報・HP 管理を置くことにしている。

（3）2021 年度の具体的な目標設定

プラットフォーム事業で行う WG の活動に対して、事業最終年度までに達成を目指す達成目標 (KGI: Key Goal Indicator) 及び KGI の達成するために年度ごと 1 年間の取組成果として目指すべき活動指標 (KPI: Key Performance Indicator) を定め、年度単位での活動の進捗状況を評価している。具体的な達成目標 (KGI) 及び活動指標 (KPI) は以下の通りとなる。

【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

＜ 達成目標 (KGI) ＞

- 1) 産官学連携研究をきっかけとした 3 件以上の事業化または商品化を行う。
- 2) 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。

＜ 活動指標（KPI）＞

- 1) 産官学研究について、最終年度までに 10 件以上を実現する。
- 2) インターンシップ、採用支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所へのプラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

＜ 達成目標（KGI）＞

- 1) 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年度比で 40%増加させる。
- 2) 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。

＜ 活動指標（KPI）＞

- 1) 地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
- 2) 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
- 3) 産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
- 4) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

＜ 達成目標（KGI）＞

- 1) 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。
- 2) びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上増加する。

＜ 活動指標（KPI）＞

- 1) SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上 及び教職員の質の向上に役立てる。

上記の目標をもとに 2021 年度の各ワーキンググループの活動は次ページ以降に詳細を記載している。

3. 2021 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 事業活動

(1) 事業概要及び数値目標

A. 産業振興に向けた産官学連携事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
びわ湖東北部 地域における 産業振興・産 業創出の実現	産官学連携研究 をきっかけとし た、3 件以上の事 業化または商品 化 就職支援事業及 びインターンシ ップ事業に参加 した企業の採用 充足率を 2019 年 度比で 10%以上 改善する(2023 年 度評価)。	産官学連携事業を推進するために、プラット フォーム参加校における研究課題の共有及び研 究施設設備に関するネットワーク網を整備し、 更に産業界・自治体への人的及び設備的なネッ トワークを拡大することにより、プラットフォ ーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を 活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共 同研究を実施する。	産官学連携事業 ・地域産業界に向けた研究紹介 ・産官学共同事業推進助成	・産官学共同研究について、最終年 度までに新たに 10 件以上を実現す る。
		大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会 や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採 用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学 共同研究の成果や地元産業について、プラット フォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内 企業へのインターンシップ及び企業紹介を行 う。	インターンシップ、採用活動支援事 業 ・採用活動支援 ・就職活動支援	・インターンシップ、採用活動支援 事業への参加企業数(延べ数)・参加 学生(延べ数)を 2019 年度の参加実 績を基準に 10%以上の増加を毎年維 持する。
		産官学共同研究の成果や地元産業について、地 方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフ ォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備 し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活	UIJ ターン推進事業 ・ローカルメディアによる移住促進 事業	・UIJ ターン推奨事業として、滋賀 県外居住者の滋賀県内企業や事業 所への本プラットフォーム連携機 関を通じた雇用について、最終年度

		性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。		までに年間 20 名以上を実現する。
--	--	-----------------------------	--	--------------------

B. 地域コミュニティの活性化事業

課題	達成目標（KGI）	取組事業概要	具体的な活動（取組事業）	活動指標（KPI）
びわ湖東北部 地域の賑わい 創出および住 民支援サービ スの充実	地域課題に取り 組む活動数及び 活動参加者数を 2018 年比 40%増 加させる。	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。	生涯学習拠点整備事業 ・びわ湖東北部地域生涯学習講座(教養コース・専門コース)	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
		自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。	地域住民に向けた健康増進支援事業 ・人生 100 年時代 健康いきいきプロジェクト	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
	地域課題に取り 組む活動に参加 した学生の地域 への愛着度 65% 以上を達成する。 (2023 年度評価)	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。	まちづくり支援事業 ・災害に強いまちづくりプロジェクト ・SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト ・まちの魅力発信プロジェクト	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
		・地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。	ネットワーク推進事業 ・キャンパス SDG s びわ湖大会	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

C. 地域を担う次世代人材の育成

課題	達成目標（KGI）	取組事業概要	具体的な活動（取組事業）	活動指標（KPI）
今後のびわ湖 東北部地域を 担う人材の確保 地域課題等を テーマにした 共同教育事業 の確立	地域内の複数校 が連携した共同 教育事業数を 2018 年比で 20% 増加。(2023 年度 評価) びわ湖東北部地 域連携協議会に 参画する連携機 関からの地域内 における共同教 育事業に参加す る人数を 2019 年 比で 20%以上の 増加(2023 年度評 価)	・SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の 企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソー シアムの枠組みを利用した大学生向けの教育 環境の充実を図る。	SDG s をテーマとした共同講義事業 ・SDG s 単位互換科目 「近江での SDG s の実践」 ・単位互換事業 単位互換提供科目：「SDG s と滋賀の グローバル・イノベーションー近江 のくらしとなりわいー」 ・単位互換提供科目：「滋賀論」	・SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度ま でに 2018 年度比で 30 名以上増加さ せる。
		・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 （大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等 を活用した学習支援やプログラミング教育支 援等）を実施する。	幼・小・中・高校生への学習支援事業 ・びわ湖東北部地域文化・芸術推進プ ロジェクト ・びわ湖東北部地域不登校児童・生徒 プロジェクト ・びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プ ロジェクト 地域内進学促進事業 ・びわ湖東北部地域 動画で推進地 域内進学	幼・小・中・高校生向けの学習支援 活動を最終年度までに新たに 5 件 以上行う。 ・プラットフォーム事業参加校合同 で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
		びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブ ランクのある社会人、又はプラットフォーム参 加校の卒業生を対象に、地域内での就職につな	地域人材活性化支援事業 ・SDG s 地域人材養成事業 ・保健医療福祉分野の人材育成プロ	・社会人等向けの共同教育講座を最 終年度までに 5 講座以上実施する。

		がるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。	グラム ・次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト	
		びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD・SD）を設ける。	共同 FD・SD 事業 ・地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発 ・中等教育懇話会 ・共同 FD・SD 事業 ・高等教育のグラウンドデザインに関する検討会	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

(2) 2021 年度 個別事業計画

① 2021 度 WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-1 地域産業界に向けた研究紹介
事業概要	産学連携研究を進めるためには、大学がどのような研究をしているのかを産業界に知ってもらうことが第一ステップである。しかし、各大学が研究者紹介などの冊子を作成してはいるものの、その内容は専門的で難解であるとの声が多い。この問題を解決するために、2019 年度から、本プラットフォーム連携大学で共通の平易な表現を用いた研究紹介ハンドブックを作成して地域産業界に配布した。今年度も引き続き、産学連携研究のきっかけをつくるために、「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.3」を作成し、連携機関を通じて配布をする。
事業計画	「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.3」の作成 ハンドブック作成準備のためのオンライン打合せ (2021 年 5 月) 連携大学へのハンドブックの執筆依頼 (2021 年 6 月) ハンドブックの完成・配布、告知ポスターの掲示 (2021 年 9 月)

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-2 産官学共同事業推進助成
事業概要	WG-A の達成目標である、びわ湖東北部地域での新しい事業化または商品化を達成するためには、産官学共同研究の件数を増やすことが必須である。昨年度、びわ湖東北部地域における産官学共同事業を推進することを目的に「びわ湖東北部浜地域プラットフォーム連携事業推進助成」(本協議会の改称に伴い「彦根・長浜地域プラットフォーム連携事業推進助成」から改称)を創設した。今年度も引き続き、この助成制度を活用して新たに共同事業・共同研究を開始するグループに対して、スタートアップ型として資金的援助及びプラットフォーム加盟機関による人的・物質的援助を提供する。さらに、達成目標である事業化または商品化を加速させるために、前年度までに助成してきた事業グループに対して継続型として追加支援する。対象となる 4 つの事業グループに問い合わせたところ、2 件の事業グループから商品化に向けた継続支援の希望があった。

事業計画	【スタートアップ型】 昨年度に創設した「びわ湖東北部浜地域プラットフォーム連携事業推進助成」に基づき、3 件程度の事業グループに対して、総額 1,500 千円の助成を予定する。 ・プラットフォーム連携機関への募集と選定（2021 年 6 月末まで） ・採択グループへの助成開始（2021 年 7 月） 【継続型】 前年度までに WG-A が支援した事業グループを対象として、今年度は総額 1,000 千円の追加助成を予定する。 ・追加助成を希望する事業グループに対する事業進行状況の聞き取りと事業計画及び予算案の受付と WG-A での承認（2021 年 6 月末まで） ・事業グループへの助成開始（2021 年 7 月）
------	--

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ、採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ、採用支援事業への参加企業数(延べ)・参加学生(延べ)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1 採用活動支援事業
事業概要	地域内の企業がプラットフォーム加盟大学、自治体、商工会議所と連携しながら、新規学卒者の就職活動が多様化する時代に柔軟に対応するべく、新卒採用市場の把握や戦略的に採用を行う能力を養い、採用基盤を強化することを目的にした通年事業を展開する。本事業を通じて、地域内企業の採用情報の紹介やインターンシップ情報の紹介を行うことで企業と学生のマッチングと、企業の採用成功の実現を目指す。
事業計画	①学生就職面接会 地域企業と学生がマッチングする機会を設けるため、合同就職面接会、就職活動セミナーを開催する。 開催日：2021 年 6 月 22 日(火) /会場：長浜バイオ大学体育館 ②業界研究会 学生にびわ湖東北部地域の企業の魅力を発信し、若者の地域への就職、移住定住を促進することを目的として業界研究会を開催する。 開催日：2022 年 2 月に実施予定/会場：未定 ③N-MUSUBI びわ湖東北部地域の企業のインターンシップや採用情報等の継続的な紹介を通して、学生と地元企業とのマッチングを行う。 開催日：2021 年 6 月から公開、配布予定 ④企業見学会 学生がびわ湖東北部地域の企業を見学することで、その企業の魅力を知り、

	就職意欲を高めるとともに、学生と企業とのマッチングをはかる。 開催日：2021年7月～8月の期間に計4日間を予定。 ⑤企業採用力強化プログラム 地域の企業が大学と連携しながら就職市場の把握や戦略的に雇用を行う能力を養い、採用基盤を強化されることを目的として、企業の採用戦略の立案をサポートする事業を実施する。上記①～④の事業との連携、相乗効果を図る。 開催日：2021年5月～2022年1月の期間に計5日間を予定。 ⑥地域内企業に必要な採用力強化～履修成績の活用 第2弾～ 地域内企業の採用に関する課題解決や採用力強化、地域に求められる採用活動の推進を目的に、本協議会に参画する大学・商工会議所・自治体が連携し、地域内企業を対象とする研修会を実施する。 開催日：2021年9月に実施予定
--	---

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ、採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ、採用支援事業への参加企業数(延べ)・参加学生(延べ)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	3・8・10
取組事業 No.	A-2-2 就職活動支援事業
事業概要	プラットフォーム加盟大学に所属する学生や、地域内へ就職を希望する学生を対象に就職活動支援を行う。具体的には、連携大学の学生を対象にした就職活動に向けた準備のための講座やセミナー、模擬体験などのワーク、企業を知る機会を提供することで、学生の就業観を高めることと学生がスムーズに就職活動に取り組めるようにすることを目指す。
事業計画	①留学生・キャリアガイダンス びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍している日本企業への就職を目指す学生等を対象とした就職ガイダンスを実施する。 開催日：2021 年 7 月 第 1 回／2021 年 12 月 第 2 回の開催を予定。 ②専門職 就職フェア バスツアー&セミナー びわ湖東北部地域の専門職（教育系専門職や医療系専門職）就職希望者への就職活動支援を実施する。今年度はびわ湖東北部地域で開催される専門職系就職フェアへのバスツアーと事前事後セミナーを開催する。 開催日：2021 年 8 月～10 月頃を予定。 ③パネルディスカッション＋合同企業説明会 地元-滋賀-で働くことの意義を考え、第 2 部で実際に地元企業による合同企業説明会を実施し、学生達が就職活動に取り組めるよう具体的な行動に繋げていく。 開催日：2022 年 2 月中旬頃を予定。

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン推進事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	A-3-1 ローカルメディアによる移住促進事業
事業概要	コロナウイルスの感染拡大により、地方での暮らしの注目度が上昇している。従来の観光資源を中心にした移住 PR ではなく、地域で活躍する人や地域での暮らしに焦点をあてたフィールドワークを実施し、学生の目線からのびわ湖東北部の「ヒト」「モノ」「コト」の魅力を web サイトやフォトブックにより発信することで、若年層の UIJ ターンの促進を図る。情報発信のための写真撮影機材は o m デジタルソリューションズ (旧オリンパス) から貸与を受け、写真撮影の研修も実施する。学生が暮らし学ぶびわ湖東北部の良さを発見、実感することで学生自身の地域への愛着や誇りの醸成にも資する。 また、フォトブックなどの完成物は移住定住促進の PR 素材として三市が積極的に活用する。
事業計画	6 月中 長浜生活文化研究所と事業内容の協議 7 月上旬 参加学生募集 8 月 学生含め事業内容の再協議 8 月～9 月 フィールドワーク実施 10 月 web 掲載記事、フォトブックデザイン等検討 11 月 web サイト改修、フォトブック作成 12 月 完成予定

② 2021 度 WG-B 地域コミュニティの活性化事業

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する
対応 SDGs 番号	3・4・16
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座 (教養コース・専門コース)
事業概要	昨年度からスタートした地域住民向けの公開講座を継続して開催する。5 大学・短期大学の知的資源を活用し、多様なテーマを開催することで、地域住民の学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目指している。 【教養コース】 ① 市民教養講座 連携 5 大学の教員が講師となり多彩なテーマの公開講座 (全 10 回) コロナ禍のため今年度も動画 (オンデマンド) で開催する。 ② 出前公開講座 地域住民の学ぶ機会を拡大するために、学生と教員が機器を持参し、地域に出向いて講座を開催する。 【専門コース】 ③ 子育て応援講座 地域の子育て支援として、1) オレンジリボン運動、2) パパママ講座を動画にて開催する。 ④ 市民土曜講座 「長浜バイオ大学の研究・教育はバイオサイエンスだけではない」をテーマとして、生物、情報、数学、英語等多岐にわたる講座を実施する。長浜バイオ大学を会場とし、終了後は動画を協議会ホームページに公開する。 ⑤ リフレッシュ講座 子育てや福祉の分野や語学・文学・映画上映など幅広い層に関心を持ってもらえるような講座を開催する。(全 8 回) ⑥ 社会人オンライン講座

	地域住民のニーズに応じたテーマによるオンラインの公開講座を20分×3回で動画配信する。
事業計画	① 市民教養講座（全10回） コロナ禍のため、今年度も動画配信（オンデマンド）とし、7月～10月にかけて順次公開する。 ② 出前公開講座 学生メンバーを募集し、講座の運営、感染症対策に関する情報提供等、事前準備を行い8月～12月に出前講座を実施する。 ③ 子育て応援講座 オレンジリボン運動は、5月から講座企画・動画・チラシ・オレンジツリーを作成し、6月から広報活動を行う。 パパママ講座は、8月にオンラインセミナーを開催する。 ④ 市民土曜講座（全5回） 7月から12月の期間に対面とオンラインで開催する。 講師は、斎藤修教授、白井剛教授、河合靖教授、西郷甲矢人教授、Olivia Kennedy 講師 ⑤ リフレッシュ講座 秋以降の開催を予定。コロナ禍によっては動画配信で対応できるように準備をする。 ・自分の英語で海外旅行へ ・Wikipedia から考える情報発信 ・浮世絵とともに楽しむ「源氏物語」の世界 ・はじめての、ひさしぶりのピアノ ・絵本を楽しむ講座 ・活動弁士から紐解く日本の口頭性 ・こころの発達はどういうことだろう～発達心理学の世界～ ・地域福祉から子どもの福祉を考える ・産前産後トータルケア（3回シリーズ） ・健康寿命延伸に繋がる食育の実践 ⑥ 社会人オンライン講座 7～8月頃、開催内容を決定する。開催の2か月前に広報開始。 申込制

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3・15
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト①中高年の健康増進分野
事業概要	健康的な生活を送るには、食事・運動・睡眠などの生活習慣が重要なことはよく知られているが、社会交流によって、好奇心を持つ、学ぶ、探求する等、「生活を楽しむ」ことも重要な要素である。このプロジェクトでは、ウォーキングによる健康増進・森林浴・地元を歩いて魅力発見・参加者との交流等、日常生活に刺激と潤いを与えるイベントとして『ぶらり地元ウォーキング』を実施する。いずれもビワテクのコースとして登録し、継続的な健康増進活動を支援する。次年度には、大学探検コースとして、講義・学食・施設見学等も検討している。 『ぶらり地元ウォーキング』 1) 地域の魅力を探検！（地場産業・観光） ①長浜コース ②米原コース ③彦根コース 2) エコツアー！ ④森林浴でリフレッシュ（長浜市金居原）木之本からバス徒歩 4 キロ程度 3) 健康増進コース！ ※学生企画 ⑤初級：健康チェック・体力測定・ニュースポーツ体験・ウォーキング方法を学ぶ・実際に歩く ⑥中級：専門的な講義・ウォーキング方法を学ぶ・実際に歩く（やや長距離）

事業計画	今年度は、ワクチン接種が一定程度進むと考えられる 9 月下旬～11 月下旬に開催する。 6 月 日程・コース・見学先・内容・ガイド等の決定 学生企画案・キーワードの検討 7 月 募集準備 8 月 募集開始・広報へ掲載・しらがメール 9 月下旬～11 月下旬 イベント①、②、③、④、⑤、⑥ 12 月 アンケートまとめ 1 月～ 次年度の検討
------	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3・11・17
取組事業 No.	B-2 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト ②認知症をめぐる共生社会構築分野
事業概要	高齢化社会を迎え、社会問題化してきている認知症という課題に対して、PF 連携機関、各種団体、地域住民などが協働して課題解決の道を探る。 具体的には、①過年度に引き続き、VR などを活用した回想法の開発に取り組む、②学生を主体にした認知症に関する啓発活動を行う、③認知症ホームと連携した患者 QOL の改善の取り組みを行う。 ①については、琵琶湖博物館や地域にある懐かしい風景を VR でアーカイブする。 ②については、彦根市などと協力して認知症サポーター養成講座を開くとともに、地域の社会福祉法人などの協力を得て、公開セミナーなどを開催する。 ③については、プロジェクト科目を開講し、学生による患者等の QOL の向上につながるプロジェクトを実施する。
事業計画	①VR などを活用した回想法に用いる映像資料の取材等を行う。 ②学生による認知症プロジェクトを展開する連携先の確保を行うとともに、彦根市などの協力を得て、認知症サポーター養成講座や、その他認知症に関わる公開セミナーを開催する。 ③プロジェクト科目については秋学期に実施する。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11・13
取組事業 No.	B-3-1 災害に強いまちづくりプロジェクト
事業概要	近年、地球温暖化の影響もあり、各地で大規模災害が毎年起こるようになった。昨年度から開催している防災士養成講座を継続するとともに、実際の災害時にも対応できるよう、産官学が連携し、地域住民が参加する研修会を実施し、次年度以降も継続する。 ①防災士養成講座（通信レポート+2 日間講義+防災士試験） [講師]滋賀大学・滋賀県立大学・立命館大学・長浜赤十字病院・彦根地方気象台・NPO 政策研究所・日本防災士会滋賀県支部の講師 [会場]聖泉大学（2 日間）[定員]95 名程度（コロナ対策のため 50%程度で募集予定） [募集]各連携機関に PF 推薦枠を設け募集するとともに一般募集も行う。 ②防災かまどベンチの製作（彦根工業高校と連携し、建設科の生徒がかまどベンチ 2 基を製作する） 大学生が製作する防災かまどベンチが完成するまでの経過や取組を取材し、ホームページや Facebook、ラジオ（FM 彦根）で紹介するとともに防災研修会でも情報発信する。（会場：聖泉大学体育館横） ③防災研修会 ・かまどベンチを地域住民へお披露目するのに併せて、防災の研修を実施する。 ・昨年度、防災士養成講座を受講した人及び今年度受講した人、企業の

	防災担当者対象の研修会を行う。 ・滋賀県危機管理センターを見学する。 ・学生による防災グッズの作成ブースを設置し、グッズを作成するとともに完成品は大学ショーケースおよび滋賀県危機管理センター 1F に展示する。
事業計画	スケジュールについては、コロナ感染対策によって内容・時期を調整しながら進めていく。 5 月 防災かまどベンチ製作（～7 月頃まで） 大学生による取り組みの取材活動と情報発信 防災士養成講座 実施準備（講師依頼・要項作成・機構へ申請） 6 月 〃 PF 内に周知・募集 7 月 受講確定・テキスト・レポート郵送・普通救命講習 大学生が作成する防災グッズの検討を行う 8 月 滋賀県危機管理センター見学 9 月 20 日 防災士養成講座（1 日目） 9 月 23 日 防災士養成講座・試験（2 日目） 10～11 月 防災研修会・イベント ※防災士養成講座運営は滋賀県、普通救命講習は自治体の協力を得て行う。 コロナ対策として、普通救命講習が休止される場合は、再開後受講して頂く。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-2 SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト
事業概要	「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」として、PF 連携大学(学生・教員)と PF 連携機関・びわこ東北部地域にある各種団体が連携し、地域活性化や地域課題解決に向けた取組を行う事業。連携大学から事業提案を募集し、活動を認められたプロジェクトには、活動費(最大 10 万円)の範囲内で提案に沿った取組を行う。 活動の中間報告として「キャンパス SDGs びわ湖大会」を活用する。 コロナ対応のため、対面の活動期間が限定されることを想定し、各大学での募集は、8 月末まで実施可能とする(対面の活動以外は制限なし) ※1 大学 3 プロジェクトまで。 プロジェクト実施学生には、地域への愛着度調査を実施する。
事業計画	各大学のスケジュールに合わせて実施する。 <以下は目安> 5 月～6 月 プロジェクト募集要領、申請書作成、募集開始 6 月下旬 第 1 回目 実施プロジェクト決定 6 月～8 月 プロジェクトの募集・提案・決定(最大 15 プロジェクト) 6 月～2 月 プロジェクトの実践 ・各大学において課外活動が中止されている期間は、対面による活動は不可。 11 月頃 キャンパス SDGs びわ湖大会オンラインパネル展へ出展

	11 月下旬頃 キャンパス SDGs びわ湖大会（会場・県立大学）で、 活動の中間報告実施 1 月 学生アンケートの実施（愛着度調査） 2 月下旬 プロジェクト実績報告・会計報告 ※コロナ対応等により、「キャンパス SDGs びわ湖大会」が中止された場合は、中間報告は中止する。
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・10・11・16
取組事業 No.	B-3-3 まちの魅力発信プロジェクト①②③④
事業概要	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実には、プラットフォームで「学び・働き・暮らす」が好循環になるよう、多様な方法で地域の魅力を発信することが欠かせない。コロナ禍において人の移動や交流が制限される中、動画を活用した地域の魅力発信や多文化共生を推進することを目指す。 今年度の事業 ①音楽を通じた多文化共生のまちづくり紹介動画 ②米原市動画作成講座・動画コンテスト ③やさしい日本語普及活動 ④外国人妊産婦・育児中の母親の交流会 事業を通じて地域の様々な資源の再発見、外国籍市民への理解、動画の制作方法、SNS の活用などを学び、地域の魅力や多文化共生を理解する。次年度にはプラットフォーム全体へ広く展開する。
事業計画	①音楽を通じた多文化共生のまちづくり紹介動画 制作スケジュール： 8 月 制作業者との打ち合わせ

	9月～11月 撮影 12月～1月 動画編集、校正 2月 動画完成予定 撮影協力：長浜市民国際交流協会 ②米原市の魅力発信 <動画作成講座> 6月中旬 (1) インストラクション 7月中旬 (2) 企画ワークショップ 8月下旬 (3) 撮影ワークショップ (4) 編集ワークショップ 10月上旬 (5) SNS 発信 <動画コンテスト> 6月下旬 詳細決定、告知 8月中旬 動画募集開始 12月中旬 募集終了 1月中旬 審査 2月中旬 表彰式 ③やさしい日本語普及活動 1. 関係機関打ち合わせ、やさしい日本語研修 2. 店舗、図書館、クリニック、学校等への訪問、主旨の説明 3. 賛同店、機関へのやさしい日本語化における協力 (例えば、レストランメニューのやさしい日本語化、やさしい日本語版接客マニュアルの作成など) 4. やさしい日本語賛同店舗マップや啓発品、動画の作成 ④外国人妊産婦・育児中の母親の交流会 2021年8～10月 交流会の企画案の詳細決定(日時・内容等) 参加学生募集 びわ湖東北部地域の母子保健サービスの現状調査 2021年10～12月 通訳者の募集と確保 2022年1～2月 チラシ作成・広報活動 2022年3月 国際交流会1回目実施
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (ネットワーク推進事業)
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4 キャンパス SDGs びわ湖大会
事業概要	・びわ湖東北部地域連携協議会参加校の学生、小中高生を含む若者、企業や地域住民等の様々な世代や立場の人が参画し、SDGs の達成に向けた情報発信やネットワークの構築、交流を行うキャンパス SDGs びわ湖大会を開催する。 ・びわ湖東北部地域連携協議会で実施する SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクトの中間報告や基調講演、SDGs 関連機関・団体をはじめとする各主体の活動のパネル展示を行う。(協議会参加機関は原則 1 件以上のパネル出展を行う。) ・本大会の基調講演は協議会事業の共同 FD・SD 研修会に位置付ける。 ・びわ湖東北部地域連携協議会の参加機関が大会運営に参画し、事務の担当を滋賀県立大学が行う。 [大会開催のねらい] ・学生が主体となって SDGs の達成を意識した活動に取り組むきっかけとする ・びわ湖東北部地域連携協議会で実施する SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト事業の推進 ・SDGs の達成に向けて活動する学生団体等のネットワーク構築と活動の満足度の向上を図る ・地域課題に取り組む団体等が SDGs の達成に向けた活動を確認するための機会とする
事業計画	1. 実施期間 (予定) : 令和 2 年 11 月 20 日(土)or27 日(土)

	2. 内容：基調講演、パネルディスカッション、事例発表 3. 実施スケジュール 6 月頃 基調講演出講者・事例発表者交渉 8 月頃 事業概要決定、一般参加者(パネル出展)募集開始 11 月頃 イベント開催準備 11 月頃 キャンパス SDGs びわ湖大会実施 12 月頃 実施報告書の発行
--	---

③ 2021 度 WG-C 地域を担う次世代人材の育成

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	【C-1-1】 近江での SDGs の実践
事業概要	SDGs や地域課題をテーマとし、協議会加盟大学から講師を派遣し滋賀県内の大学生の教育環境の充実を図るための共同科目を開講する。 科目概要は次のとおり。(シラバスより) 持続可能な開発目標である SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015 年 9 月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画である。滋賀県は全国に先駆けて、2017 年 1 月に SDGs を県政に取り込むことを宣言した。本科目ではまず、SDGs とは何か学び、SDGs で掲げるの 17 個の目標とその目標達成への実践例なども学ぶことで SDGs への理解を深める。また、SDGs での目標を近江の地で実践していくためにはどのような行動計画を立ててどのように実践していけば良いのかを、グループワークを通してそれぞれが考え、それを皆で共有することで、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。
事業計画	開講…後期 (秋学期) 集中 (10 月～12 月) 単位数…2 単位 受講対象…環びわ湖コンソ単位互換科目として滋賀県内の大学生が受講可能。 授業計画 (シラバス抜粋) … 第 1 回 SDGs とは何か (担当: 長浜バイオ大学) 10 月 10 日 (会場: 勤労者福祉会館 臨湖)

	・ SDGs とは何か・ 滋賀県における SDG s への取り組み ・ 竹生島の現状視察と SDGs の実践（フィールドワーク） 第 2 回 SDGs とは何か 10 月 23 日 ・ SDGs の 5 つの P（People：人間）（担当：滋賀文教短期大学） ・ SDGs の 5 つの P（Prosperity：豊かさ）（担当：滋賀大学） 第 3 回 SDGs とは何か 11 月 13 日 ・ SDGs の 5 つの P（Planet：地球）（担当：滋賀県立大学） ・ SDGs の 5 つの P（Peace：平和）（Partnership） （担当：聖泉大学） 第 4 回 SDG s の概念を体験する（担当：長浜バイオ大学）12 月 4 日 ・ SDG s における経済・社会・環境の調和を体験する ※第 2 回以降の講座については大学サテライトプラザ彦根を会場として共同利用する。
--	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) 取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	【C-1-2】 SDGs 単位互換科目
事業概要	・SDGs に係る県内大学生の理解を深め、行動を促進するため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江のくらしとなりわいー」を実施する。 ・近江のくらしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すとともに、ローカルな現場およびグローバルな現場の実践・課題が互いにどのようにかかわっているのか、また、その関わりによって、どんな未来が実現できるかについて、外部講師と共に議論する。 ・SDGs 達成に取り組む県内企業や、SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、びわ湖東北部地域を中心とする学生が参加できるように周知する。 ・令和 2 年度はコロナ禍により中止（令和元年度内訳、県大：39 名、滋賀大：1 名、バイオ大：1 名、滋賀短期大：1 名、立命館大：22 名）
事業計画	1. 実施期間(予定)：令和 3 年 8 月 27 日（金）～29 日（日）（夏期集中科目） 2. 定員：100 名 3. 担当教員：上田洋平（滋賀県立大学講師） 4. 実施スケジュール（予定） 6 月 環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける単位互換科目募集開始 6 月中旬 単位互換事業科目履修登録締切 8 月 27 日～29 日 授業実施

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	【C-2-1】単位互換提供科目「滋賀論」の開講
事業概要	環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用し、下記のとおり単位互換提供科目を開講する。 ・授業科目名：「滋賀論」 ・授業概要：滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化および地域の個性を生かした地域づくりに関する取組みや実践について解説する。授業形態は、講義とディスカッション (10 回分)、現場を巡るフィールドワーク (5 回分) とする。 フィールドワークは、1 日かけて琵琶湖周遊船に乗船し各地を巡る予定。受講者が一定数に満たない場合、バス等による琵琶湖周辺地域のフィールドワークに代える。 ※5 月 14 日現在、対面授業、フィールドワークが困難であるため、遠隔授業を中心に再検討中である。
事業計画	5 月下旬から遠隔授業を開始する予定

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	【C-3-1】びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト
事業概要	大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書量は、減少傾向にあり、公共図書館でもその世代の図書館利用は伸び悩んでいる。その読書活動を推進していくことが全国的にも課題とされている。若者の読書活動推進は地域の人材育成に大きく関わる課題であると考えられる。 【C-3-1 ①】本を紹介してみませんか 2021 ～POP・本の帯コンクール～ びわ湖東北部地域の読書推進を進めるため、地域の幼児・児童が、幼少期より湖北・湖東・滋賀の文化に親しみ、本地域への愛着をより深めることにより、将来、地域の課題解決を提案できる人材に成長することを期待すると共に、音楽を通してこころを育てる学習支援活動、自分が読んで面白いと思った本を紹介する POP または本の帯を夏休み期間を中心に募集してコンクール実施します。コンクールに応募することで読書へのきっかけをつくる活動を実施する。 【C-3-1 ②】図書館を活用した地域の大学生世代の読書推進事業 図書館を活用した地域の大学生世代の読書推進として、びわ湖東北部地域連携協議会の連携大学の学生と協働し、巨大黒板など館内施設を活用した空間デザインを計画し、大学生世代の来館・読書を促す展示/体験イベント実施する。特に具体的効果として下記の通り大きな効果

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-3-2】びわ湖東北部地域 不登校児童・生徒プロジェクト
事業概要	不登校生徒については、まず不登校から学校へ行くきっかけ作りが非常に大切な事となる。しかしながら、それでも様々な理由や環境で中々不登校を解消出来ないでいる生徒は全国的にも多い。びわ湖東北部地域連携協議会として、そういった現在進行での不登校生徒へ学習の機会を与える事業を展開する。また、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により良い意味で急速に発展しつつ ICT を取り入れた事業を本 WG-C 事業の「C-3-3 (予定) の ICT 推進事業」と密に連携をしながら、新たに展開する。
事業計画	【C-3-2】不登校プロジェクト 令和 2 年度事業を継続・充実し、多様な学びについての授業プログラムを行い、多様な価値観を理解したサポート人材を育成する。授業の一環として大学内での居場所 (学習支援) の実践を行いつつ、不登校生徒の受け入れ体制を整える。 彦根市内の中学校への事業紹介と生徒募集。 居場所情報サイト「ひこねの居場所」の更新・充実と掲載エリアの拡充をするとともに、情報の冊子化も行いたい。 協議会参加の大学と行政、福祉機関への情報共有と連携をはかることで、不登校生徒をはじめとする子ども・若者の支援をびわ湖東北部へと波及することを狙うもので、協議会事業として取り組む意義が大きいと考える。

	・4月から 大学のPBL授業（プロジェクト科目）として「不登校プロジェクト」を開講し、サポート人材を育成する。 ・4月から 対象中学校への事業紹介と生徒募集。学内の居場所活動の適宜実施。 ・5月から「ひこねの居場所」掲載情報の充実、対象エリアの拡充。 ・10月から 大学のPBL授業（プロジェクト科目）として「不登校プロジェクト」を開講し、サポート人材を育成する。 学内の居場所活動の適宜実施。週1日程度を想定。 ・1月～2月 「ひこねの居場所」冊子の制作と完成
--	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-3-3】びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト
事業概要	国の示す ICT 利活用の促進において、我が国が抱える様々な課題 (地域経済の活性化、社会保障費の増大、大規模災害対策等) に対応するため、社会の様々な分野 (農林水産業、地方創生、観光、医療、教育、防災、サイバーセキュリティ等) における ICT の効果的な利活用が不可欠とされている。また、今般の新型コロナウイルス感染症感染拡大により様々な場面での ICT 利活用の促進が進むとともに、それに比例してデジタルデバイドも進んでしまっている。びわ湖東北部地域連携協議会として、ICT 活用を進めるとともに、小中学生への ICT 活用支援事業、ICT を推進するための教員の育成事業を実施し、今後のびわ湖東北部地域に ICT 活用能力が涵養する事を目指す。
事業計画	【C-3-3 ①】ICT 教育推進教員養成事業 大学と各市教育委員会が連携して、小中学校の ICT 教育推進に向けての環境整備やプログラミング教育等の授業づくりに高度な技術と見識かつ中長期的なビジョンを持って推進できる教員の育成を行う。 ・小中学校における ICT 教育推進の核となる教員に対する研修の実施 また、今後 (2 年次以降) は、学校の ICT による不登校児童生徒支援のしくみづくりへの継続的な指導助言と、大学と ICT 教育推進教員による小中学生向けプログラミング教育 (出前講座等) 講座の実施予定 《1 年次》 ICT 教育推進教員育成のための講座開講の準備として、年間 5 回の組織委員会の開催と講座受講者を募集する。

	また、毎回アドバイザーとして ICT 教育を専門とした大学教授に参加を要請する。 5 月 第 1 回組織委員会：組織体制、要項作成、予算編成など 7 月 第 2 回組織委員会：講座内容の検討①、担当教授、会場など 9 月 第 3 回組織委員会：講座内容の検討②、募集方法、選出方法など 11 月 第 4 回組織委員会：募集案内のチラシやポスター制作、配布など 1 月 第 5 回組織委員会：1 年次の総括及び受講者の決定など 《2 年次（次年度予定）》 ICT 教育推進教員育成のための講座を必要回数実施し、3 年次は、推進教員による小中学校教員に向けた研修、公開授業と授業参観を行いたい。また、「ICT による不登校児童生徒への支援事業」（予定）と「小中学生のためのプログラミング教育支援事業」C-3-3②事業（予定）に着手する。 【C-3-3 ②】子ども統計プログラミング教室 令和 3 年 11 月を目途に、県内の小学 5～6 年生とその保護者 10 組程度を対象に小学校の統計学習に役立つデータ検索をテーマに、データを分析するためのプログラミング学習を中心としたワークショップを行う。 講師は、総務省主催の子ども統計プログラミング教室の講師を務めた実績を持つ事業者に依頼することで、講義内容の担保を図る。 また、長浜市と共催し、さざなみタウン長浜文化福祉プラザで開催する。 9 月下旬 HP への記事掲載やチラシ配布等による広報及び受講者募集 10 月中旬 受講者募集締切 11 月初旬 子ども統計プログラミング教室開講
--	--

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-4-1】びわ湖東北部地域 動画で推進地域内進学
事業概要	昨年に引き続きコロナ禍で、協議会主催で高校生や高校教員を集めての大学説明会の企画・実施を躊躇せざる得ない状況が続いている。 昨年度は、学問分野の説明から協議会加盟の大学の紹介へと誘導していくインタラクティブ動画を制作し、24 時間 365 日開催している協議会加盟大学合同説明会として「学びのポータルサイト」を公開した。しかしながら十分な告知・広報を行うことが出来なかった。 今年度は、びわ湖東北部の教育情報を提供するため、インターネットや SNS などを活用した広報活動を展開し、より多くの高校生や保護者、高校教員に学びのポータルサイトに誘導し閲覧数を伸ばす活動を行う。 また、広報活動と並行してコロナ禍で、効果的に地域住民へ大学での学びを伝えるため、学生のインタビュー動画 (学問分野の選択理由等) を制作し、今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保・育成を目指す。 なお、学問分野等の紹介は、昨年制作したインタラクティブ動画内で各大学紹介されているため、学生からは学問分野の選択理由や選択時期、きっかけ等、進路選択の参考になるような質問内容での動画構成とする。 動画撮影・編集について、大学間での調整等困難な場合もあるため、外注に出さず大学間で撮影・制作する。 また、制作した動画は、びわ湖東北部地域連携協議会のホームページ等に掲載するほか、合同説明会の資料として活用する。

事業計画	【C-4-1 ①】インターネット・SNS を活用した広報 ●全国展開……GDN 広告を活用 6 月～9 月 ●エリア展開…Instagram、LINE 広告 7 月～8 月 ●地域密着……ジオターゲティング広告 6 月～10 月 【その他】 ●高校掲示板へのポスター（チラシ）掲示依頼 ●全校生徒や保護者会でのチラシ配布依頼 【C-4-1 ②】学生インタビュー動画制作 ●第 1 回実行委員会の開催 構成内容とスケジュールの打合せ→決定 7 月上旬～ ●各大学で動画撮影開始 8 月上旬～ ●編集校（滋賀文教短期大学）にて撮影動画集約 9 月中旬 ●動画校正 10 月～12 月頃 ●動画完成 第 2 回実行委員会の開催 2 月頃
------	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-5-1】 SDGs 地域人材養成事業
事業概要	・びわ湖東北部地域連携協議会参加校の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者等を対象に SDGs の普及や実践促進に係る以下の人材養成事業を実施する。 ①SDGs 連続講座 オンライン等を活用し SDGs に関連する映画を題材に連続講座(4 回)を開催し、意見を共有することで SDGs を自分事化して身近な行動を考えるきっかけを提供する。協議会参加機関の HP や SNS で広く参加者を募り、SDGs の視点を持ち身近な地域で活躍できる人材を養成する。 ②SDGs 出前講座 県内外の行政機関、教育機関、企業等からの希望を受けて、びわ湖東北部地域連携協議会参加機関から SDGs に係る講師を派遣し講演やワークショップを実施する。
事業計画	1. 実施スケジュール 6 月頃 SDGs 連続講座シネマに係る契約締結 8 月頃 SDGs 連続講座の申し込み受付開始 9 月～11 月頃 SDGs 連続講座開催 随時 地域や関係機関の要望に応じて SDGs 出前講座の講師を派遣

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	【C-5-2】次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト
事業概要	社会人を対象とし、大学等の高等教育機関や市町の社会教育団体等における専門的な学習機会の提供により、学んだ知識を次世代を担う地域人材へ伝えられる人材育成を目的とした事業。 このプロジェクト目標は、大学等の高度な知識をはじめ、地域資源、地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、地域の研究発表会や地域交流活動などを通じて、積極的に次世代へ学んだ知識を伝える事で、地域のつながりを強め、総合的な地域人材の育成を図る。 どの地域からでも参加が可能で、主に長浜市・米原市・彦根市にて周知を行う。
事業計画	地元先生育成プロジェクト実行委員会を開催 プロジェクト実施に向けた企画・運営を行う。 講座期間・内容 (予定) 2021 年 7 月～2021 年 12 月 10 講座を予定 高等教育機関や市内高等学校、地域で活躍する社会教育団体と連携し、特色ある学びの提供を行う。 ・基礎講座として、地域課題や地域資源、SDG s 等の学び

	・サイエンステクノロジーや歴史文化、学校や団体の特色を生かした学び ・講座を通して学んだことの研究発表会
--	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・8
取組事業 No.	【C-5-3】保健医療福祉分野の人材育成プログラム
事業概要	【C-5-3 ①】子どものプレパレーション検討会 子どものプレパレーション検討会は、保健・医療・福祉・教育機関在職者の多職種を対象とした小児看護の質を向上するための活動で、滋賀県立大学と共同で企画・運営をしていく。 看護師や保育士、医師なども含めてプレパレーションの現状を話し合ったり、入院中の子どものために作成したプレパレーショングッズ(パンフレットや DVD)を持参したりして情報共有を行う。医療を受ける子どもやその家族が、子どもの権利を擁護されより良い看護が受けられるように、プレパレーションが浸透できていない施設をどのようにすればよいか共に考える。 【C-5-3 ②】ナイチンゲール看護研究会・滋賀 看護職の質の向上をはかるため、ナイチンゲール看護思想を学び、実践に生かすための研究会を組織し下記の活動を行う。 ○びわ湖東北部地域を中心に、ナイチンゲール看護思想と現代の看護における臨床や看護教育を対比させながら、看護の本質を探究することを目的に月に一度例会を開催する。

	○びわ湖東北部地域を中心に、病院や施設に従事する看護職と、専門学校や大学に勤務する看護教員、および大学院や看護学部の学生、高校生が参加し、ナイチンゲールの看護思想を伝える講演会を開催する。 ○例会や講演会での活動と参加者の学びを書籍としてまとめ発刊する。 「ナイチンゲール看護・滋賀の歩み(仮)」 【C-5-3 ③】 看護師のがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修 ・びわ湖東北部地域においては、病院・訪問看護施設を超えた看護師の相談・協力体制が整っていないことから、看護師のがん看護スキルの向上と看護師同士のネットワーク構築によるストレスマネジメントにより、看護師がやりがいや自信を持ちながら看護を行える体制整備が喫緊の課題である。 ・このため、がん患者の看護に従事する看護師を対象に、交流を目的とした定例の研修会を開催し、看護師同士の語りの場を設けることでの情報共有・ピアカウンセリング効果によるストレスマネジメントとやりがいの再確認。さらに看護師のがん看護のスキルの向上を図る。
事業計画	【C-5-3 ①】 子どものプレパレーション検討会 今年度は、プラットフォーム事業として「プレパレーション検討会 ビギナーコース」を1回実施する予定。 ・1回目 10月頃 13:30～16:00 聖泉大学(対面または Zoom) 【C-5-3 ②】 ナイチンゲール看護研究会・滋賀 ○講演会の開催 「ナイチンゲールの看護医師創と新型コロナウイルス感染症―換気をめぐって―」5月29日(土) 13:30～15:30 ○例会の開催 (毎回、フローレンス・ナイチンゲール著作刊行物などよりテーマ決定) 6・7・9・10・11・3月 月1回 1.5時間程度 場所：対面(本館会議室)／オンライン(Zoom)同時開催 参加者 10～30名程度

	○5月～3月 書籍の執筆・校正・編集 2022年3月発行予定 【C-5-3 ③】 看護師のがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修 ・参加者募集……令和3年9月～ ・研修会開催……令和3年11月～（3回程度開催予定） ※ビデオ会議等での参加も可 ※当初は参加者の希望に応じた研修会を実施 ※その後は参加者からの困難事例や死亡患者の情報を基に、問題の明確化と解決に向けディスカッション ※専門看護師（CNS）を外部講師として招聘 ※主催者はファシリテーターとして問題解決を図れるよう支援 ※研修終了後、参加者はリフレクションを記入し次回以降に活用 ※研修会への参加が、看護実践にどのように役立ったかを調査 ※調査結果を分析し、成果としてまとめ公表 ※その後全体総括を行い、次年度のプログラムに反映
--	---

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会(共通 FD・SD)を設ける。
活動指標	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	【C-6-1】地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発
事業概要	びわ湖東北部地域を中心とする地域性を加味した人材育成における、教育機能と就業との関連性の調査・分析を目的とする共同 IR 事業を行う。今年度は、共同 IR の揺籃から萌芽への移行期と位置付け、昨年度の成果を加味した調査を企画・実施し、大学教育と人材育成・就業の関係をより深く探索することに繋げる。本事業の成果を適宜公表しながら、若者の地域定着に何が必要であるか、ベンチマークとなる要素はあるのかを検討していく。また、この探索プロセスと同時に、本事業に関わるメンバーが大学 IR に関する専門性を高め、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成により大きく寄与することも目指していく。 ①共同 IR 運営会議： 心理・教育・IR 等に関わるメンバーを中心に、調査の方向性や企画内容を決定し、分析項目や調査方法などの計画やデザイン、ならびに共同体制におけるデータ管理方法・規定などを決定する。 ②情報収集： 昨年度の結果を踏まえ、今年度も継続的に調査を進める。教育と地域の接続に関わり、かつ FD・SD の取り組みに還元できる指標を探索する。時期は 6 月上旬から開始し、参加校による共通項目の整理・データ収集、web アンケートやインタビューなどの量的・質的データの収集を目指す。 ③人材の高度化： 本事業の発展を推し進めるため、事業に関係するメンバーがより適切な調査企画・デザイン・解析スキルを持つよう、IR に

	資する技能開発や研修等に適宜参加し，人材の高度化を図っていく． ④分析結果の共有と事業成果の公表： 基礎調査の結果をまとめ，共同 IR 事業の意義や，今後の改善に向けた情報共有の場（発表会）を設定する．また，共同 IR 事業の調査結果は，協議会 HP などを利用してレポート発信していく．
事業計画	① 共同 IR 運営会議の開催 共同 IR の実施に向けた企画・運営を行う（2021 年 6 月上旬～2021 年 3 月中旬にかけて約 3 回程度実施）． ② 情報収集と整理・解析 運営会議で決定した調査企画に基づく情報収集とデータ整理を行い，本事業のコンセプトに資する解析を行う（年間を通して随時実施）． ③ 共同 IR による成果報告 共同 IR 事業の開発を目指し，その成果をまとめ発表・公表を行う（年 2 回程度）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	・びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会(共通 FD・SD)を設ける。
活動指標	・共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4・9
取組事業 No.	【C-6-2】中等教育懇話会
事業概要	目 的：地域の初等中等教育のあり方等に、プラットフォームがどのような関わり方が出来るかを協議することを目的とする。 演 題：「調整中」 講 師：長浜中学校関係者 想定 コーディネーター：滋賀文教短期大学 日 時：未定（夏季協議会に合わせ実施予定） 方 法：ビデオ会議システムを活用（ZOOM を予定）
事業計画	・講師との事前打合せ（6 月中旬～下旬 予定） ・講師との事前リハーサル（7 月中旬 予定） ・中等教育懇話会当日（8 月下旬までに実施 予定） →Zoom ビデオ会議システムを利用し、滋賀文教短期大学内でご対応いただく →質疑応答を含め 40 分程度を予定

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会(共通 FD・SD)を設ける。
活動指標	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4・8・9
取組事業 No.	【C-6-3】びわ湖東北部地域 共同 FD・SD 研修会
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会構成団体の教員及び職員や、協議会外の他大学等も含めて広く展開する FD (大学等及び大学院の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究)、SD (大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修)を各大学のノウハウを生かし実施する。 特に、『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開に向け、数理・データサイエンス・AI と社会とのつながりについて教授できる教員の養成を目的とした「データサイエンス FD・SD」、大学間競争の激化する現代において、高等教育はどのような教育改革や募集戦略を行えばよいか、講師を招いて成功事例を学ぶ「教育改革と募集戦略 FD」、ティーチングポートフォリオ (TP)をテーマとした FD 研修会を開催し、TP を通して大学・教員の教育業績の多角的評価を進め、教育研究の質の改善をはかる「ティーチングポートフォリオの導入についての FD」、コロナ禍において web 講義や web 学会、web ミーティングが一般化してきたが、必ずしも問題なく行われているわけではない。これらの手法に詳しい講師を招き教職員に技術取得の足掛かりとすべく「コロナ禍における web 講義や web 学会、web ミーティングの開催手法についての FD・SD」を計画する。また、随時必要に応じ SDGs 等をテーマに FD・SD 研修を検討する。

事業計画	【C-6-3 ①】FD・SD「研修会データサイエンス FD・SD」 目 的：『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開に向け、数理・データサイエンス・AI と社会とのつながりについて教授できる教員の養成を目的に実施する。 演 題：「分野を超えた数理・データサイエンス・AI 教育やデータサイエンスが社会においてどのように活用しうるか」 講 師：お茶の水女子大学理学部教授 同 文理融合 AI・データサイエンスセンター長 伊藤 貴之 氏 日 時：2021 年 8 月中旬（予定） 方 法：ビデオ会議システムを活用（ZOOM を予定） ・びわ湖東北部地域連携協議会参加大学、滋賀大学のデータサイエンス学部と調整の上講師の選定を行う。 ・主催をびわ湖東北部地域連携協議会とし、主幹大学を滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学、聖泉大学として実施。 ・びわ湖東北部地域連携協議会に参加する各大学・団体に案内し、参加者を募集する。 ・びわ湖東北部地域連携協議会構成団体以外の周辺地域の大学等にも実施の案内を行い、参加者を募集する。 ・司会進行、ビデオ会議の運営は滋賀文教短期大学が行う。 【C-6-3 ②】FD 研修会「教育改革と募集戦略」 目 的：18 歳人口の減少による高等教育機関への進学率の低下が続いており、2032 年には 2020 年より 14 万人以上減少するとも報道されている。閉校する大学・短期大学もある中、定員充足率が向上したり募集定員を増加したりする大学もある。滋賀県の地域を担う次世代人材の育成には、高等教育機関の存在もまた重要である。そこで、大学間競争の激化する現代において、高等教育はどのような教育改革や募集戦略を行えばよいか、講師を招いて成功事例を学ぶ。 演 題：「教育改革と募集戦略」 講 師：調整中 日 時：2021 年 8 月（予定） 方 法：オンライン 規 模：事前申込制 上限 100 名 参加対象：参加対象①：PF 参画 大学・短期大学、滋賀県内高等学校、事業主幹校の法人内高校
------	--

	参加対象②：PF 参画外の滋賀県内大学・短期大学、京都府・福井県・岐阜県の短期大学、事業主幹校への過去 5 年間の志願者出身高校 その他： 2. 広報紙 制作・配布、聴講者受付 (1) 広報紙 印刷：2021 年 6 月下旬／広報紙 配布：2021 年 7 月以降 (2) 聴講受付期日：開催の 1 週間前（参加対象①のみを受け付ける期間を設けた後に、参加対象①②両方を受け付ける期間を設ける。） 【C-6-3 ③】共同 FD 研修会 目 的：ティーチングポートフォリオ（TP）をテーマとした FD 研修会を開催し、TP を通して大学・教員の教育業績の多角的評価を進め、教育研究の質の改善をはかる。今年度本学で予定している下記の FD 研修会について、プラットフォームに公開し、同事業として実施する。 演 題：「ティーチングポートフォリオの導入について」 講 師：佐賀大学 教授 皆本晃弥氏 日 時：2021 年 8 月 23 日（月）13：00～17：00 方 法：聖泉大学 455 教室 または 遠隔（Zoom）開催 その他：・聖泉大学 全学 FD 委員会で、事業計画等を決定する。 ・びわ湖東北部地域連携協議会において、開催チラシを各機関に配布し参加者を募集する。 【C-6-3 ④】共同 FD・SD 研修会 目 的：コロナ禍において web 講義や web 学会、web ミーティングが一般化してきたが、必ずしも問題なく行われているわけではない。これらの手法に詳しい講師を招き教職員に技術取得の足掛かりとすべく FD・SD 研修会を開催する。本研修会は、びわ湖東北部連携協議会加盟機関のみならず環びわこ大学コンソーシアムに加盟する大学にも公開し、同事業として実施する。 演 台：「コロナ禍における web 講義や web 学会、web ミーティングの開催手法」（案） 講 師：未定 日 時：2021 年 9 月（予定） 方 法：未定 ※長浜バイオ大学 FD 委員会で、事業計画（講師、日程等）を決定する。
--	--

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成事業
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、P F 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD・SD) を設ける。
活動指標	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-6-4 高等教育のグラウンドデザインに関する検討会
2021 年度の具体的な活動	地域の高等教育における現状と様々な取り組み、課題などについて情報を共有し、連携機関がどのようにして地域の高等教育の課題解決に向け、地域の教育力向上に協力できるかについて議論する検討会を実施する。 【テーマ】「びわ湖東北部地域での高大接続～虎姫高校と長浜バイオ大学の連携について～（仮称）」 【日 時】2021 年 10 月 22 日（金）13:30-14:30 【講 師】滋賀県立虎姫高等学校 校長 梅本 剛雄 様 【事例報告】 ・虎姫高校と長浜バイオ大学における高大接続（予定） 【開催場所】 長浜バイオ大学・大会議室（予定）
現在の進捗状況	講師及び事例報告内容について調整中

4. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業年間計画（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

年月	項目
2021 年 4 月	・ 第 1 回びわ湖東北部地域連携協議会：(4/23) 1) 協議会員の選任 2) 協議会長の選出
2021 年 5 月	・ 第 2 回びわ湖東北部地域連携協議会（5/28） 1) 2021 年度びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画案・予算計画案の承認 2) 2020 年度 監査報告
2021 年 9 月	・ 第 3 回びわ湖東北部地域連携協議会（9 月上旬） 1) 過去 2 年間の事業評価（KGI に対する中間評価） 2) 2021 年度 事業予算執行状況 3) 事業計画について（新規事業承認） 4) タイプ 3（PF 型）申請の承認 ・ 初等教育懇話会（9 月上旬）
2021 年 10 月	・ 第 4 回びわ湖東北部地域連携協議会（10 月中旬） 1) タイプ 3（PF 型）申請案について ・ 高等教育のグランドデザインに関する検討会（10 月中旬） ・ 2020 年度 活動成果発表（10 月下旬）
2021 年 12 月	・ 第 5 回びわ湖東北部地域連携協議会（12 月下旬） 1) 2021 年度 事業進捗状況について 2) 成果報告会 兼 外部評価委員会について 3) 成果報告書について
2022 年 1 月	・ 成果報告会および外部評価委員会の準備
2022 年 2 月	・ 第 6 回びわ湖東北部地域連携協議会（2 月下旬） 1) 2021 年度 事業進捗状況について 2) 成果報告書の承認
2022 年 3 月	・ 成果報告会 兼 外部評価委員会の開催（3 月上旬） ・ 第 7 回びわ湖東北部地域連携協議会（3 月下旬） 1) 2021 年度 事業活動総括 2) 来年度 事業活動方針